

関西テラス

Kansai Terrace



「ばあちゃんの家」がカフェに



グルメ編

9月の平日に訪ねると、若いカップルや外国人観光客が路地を行き交っていた。神戸市のフリーター女性(27)に街の魅力を聞くと「来るたびに新しいカフェが見つかる。歩いているだけで何か新しいものを発見する感じがする。高層ビルが進み、空き家も目立ってきた。街が変わり始めたのが2001年。路地が入り組む住宅地に、カフェ「サロンドアメント」が開業した。オーナーの天竺純さん(58)は当時35歳。内装などを手掛けるアーティストとして空き家だった築120年の古民家を改修した。

「梅田そばの好立地で、若者や外国人が昔の日本の生活を身近に感じられる場所にしたかった」と天竺さん。住宅の柱や土壁、天井などを残した。改修には近隣住民も飛び入りで参加した。その映像記録を「空き家再生プロジェクト」で紹介した。

古民家を改修した出店はその後も続いた。レトロロームも重なり、街には若者が目立つようになった。ブック&ギャラリー「カフェアラビク」は07年の開店。ゼネコンを脱サラした森内憲さん(51)が、昭和初期に建てられたと伝え聞

大阪・中崎町 タワマンの麓で安らぎ提供

大阪の中心部、梅田から東へ10分ほど歩くと、中崎町の古い町並みが現れる。太平洋戦争の戦火を免れた一帯は狭い道路が入り組み、築100年を超える民家が残る。リノベーションを経てカフェとなり、若者や外国人を引き寄せる。ここ20年余りで変貌を遂げた街で、人気の理由を探った。



サロンドアメントは築100年超の古民家の壁や柱、天井などを生かした(大阪市)

く長屋をリノベした。古書が並び、コーヒーを片手に読書に没頭できる。

店には創作人形を展示し、販売もしている。創作人形を常設販売する実店舗は全国に5軒ほどしかないという。「人形もなぜか古い家になじんでしまう。何でも包み込んでくれる温かさ、古民家ならではの」と話す。

カフェなどを営む若者が増えたことで、住民の顔ぶれも変化しつつある。00年と20年の国勢調査で「中崎」の「中崎西」の居住者を比べた。20年の総人口は00年比で6割増の約6400人。

安らぎを求めて街へ。そんな動機も、中崎町では矛盾しないようだ。京都府宇治市から初めて同町にきたという看護師の男性(27)に出会った。「カフェに入ったのに、まるでおばあちゃんの家のような、急に眠くなるような不思議な安心感があった」と照れながら話していた。

(森賢達太)

町内の出店者間の競争は激しさを増す。中崎町の店舗向け物件を扱う不動産仲介「ルビコン」の南耕司社長は「賃料が数年で2倍以上になった物件もある。売り上げが伸びず、短期間でテナントが入れ替わるケースもある」と明かす。

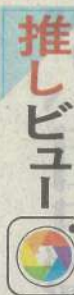
開店5年目の「ナカザキカフェ」は、関西の人気洋菓子店「マダムシニコ」などで20年以上営業したパティシエが手掛ける本格派。フレンチトーストやパフェなどを提供している。

店主の米山智浩さん(48)は「主な客層は若い女性やカップル。SNS映えする、都心の人気店に負けない味のスイーツがないと生き残れない」と話す。一方で「お客さんは昔からの町並みを味わいつつ、カフェでくつろいでいる。都心にはない安らぎを感じてほしい」と話した。

古民家と高層ビルの対比



中崎町は夜になると下町らしい暖色のライトが光る。カフェにはバーとして営業する店もあり、客を吸い寄せる。梅田の方角を望むと、高層ビルや現代的なマンションが空へのび、古民家とのコントラストを描く。町内でも新たなタワーマンションが2027年1月に竣工予定。都市化はじわりと進んでいる。注目される以前から町に通い、1980年代から続く喫茶店「ニューMASA」の経営を継いだ片牧尚之さん(51)は「新たな店主や住民を巻き込みながら、古い町並みや下町らしさを大切にしていきたい」と話した。



こちらのQRコードを読み込むと、インスタグラム「NIKKKEI」の投稿を閲覧いただけます。